



県内経済情勢

(令和4年4月判断)

令和4年4月27日

財務省関東財務局
千葉財務事務所


照会先

千葉財務事務所 財務課 (TEL 043-251-7213)

ホームページ <https://lfb.mof.go.jp/kantou/chiba/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している」









項目	前回（4年1月判断）	今回（4年4月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直している	新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	

（注）令和4年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている。

【各項目の判断】

項目	前回（4年1月判断）	今回（4年4月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	新型コロナウイルス感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	
生産活動	持ち直している	足踏みの状況にある	
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	
設備投資	3年度は増加見込みとなっている	3年度は増加見込みとなっている	
企業収益	3年度は増益見込みとなっている	3年度は増益見込みとなっている	
企業の景況感	「上昇」超に転じている	「下降」超に転じている	
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を下回っている	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、感染症による影響を注視する必要があるほか、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している」

スーパー及びドラッグストア販売額などは前年を上回っているものの、家電大型専門店及びホームセンター販売額は前年を下回っている。乗用車の新車登録届出台数は前年を下回っている。娯楽、宿泊などは弱い動きとなっているものの、緩やかに持ち直しつつある。このように、個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 3月前半はまん延防止等重点措置により衣料品等が影響を受けたものの、重点措置解除後は春休み期間と重なったこともあり食料品を中心に全体的に回復基調となり、4月も回復基調が継続している。(百貨店・スーパー、大企業)
- 1~2月は積雪や気温が低かった影響により冬物商品が好調に推移した一方、アクリル板や除菌液等のコロナ感染対策用品は昨年が好調だった反動で減少している。(ホームセンター、大企業)
- まん延防止等重点措置の適用があったものの、客足に大きな影響はなく契約は順調にとれている。一方、半導体の不足やコロナの影響による車両生産遅延等により、登録が進まない状況にある。(自動車販売、中堅企業)
- 1~3月はまん延防止等重点措置の影響により稼働率が低下し、引き続き厳しい経営環境にあるものの、昨年よりは回復基調にあり、重点措置解除後は個人の宿泊客が回復している。(宿泊、中堅企業)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

生産を業種別にみると、食料品などが増加しているものの、化学、鉄鋼などが減少しており、足踏みの状況にある。

- 原材料価格等の上昇を踏まえた価格改定を実施しており、駆け込み需要に対応するため生産量を増加させた。(食料品、大企業)
- 半導体や部品等の需給ひっ迫の影響により自動車メーカーの生産に頭打ち感があり、その影響により当社の生産も頭打ちとなっている。また、燃料費や輸送費が足下で増加しており、収益への影響を懸念している。(化学、大企業)
- 半導体不足や新型コロナによる東南アジアでの部品製造の停止等で国内の自動車メーカー全体で生産が低下しており、その影響で当社の生産も減少している。(金属、大企業)

■ 雇用情勢 「新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている」

有効求人倍率は横ばいである。新規求人数は減少している。雇用保険受給者実人員は減少している。

- 総従業員数に不足感はないものの、海外人員やIT部門等の専門領域の不足感は強い。(製造業、大企業)
- 毎年離職者が一定数いるため、多めに採用しているが、コロナ禍で転職が厳しいことから人手が定着しており、正規職員が過剰となっている。(小売業、中堅企業)
- 新型コロナの感染拡大に伴い停止していたアルバイトの採用を再開したものの、求職者からの反応は弱い。(宿泊、中堅企業)

■ 設備投資 「3年度は増加見込みとなっている」

○ 法人企業景気予測調査(4年1~3月期調査)による3年度の設備投資計画額をみると、製造業では前年比増減率33.1%の増加見込み、非製造業では同8.6%の増加見込みとなっており、全規模・全産業では同10.4%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「3年度は増益見込みとなっている」

○ 法人企業景気予測調査(4年1~3月期調査)による3年度の経常利益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)をみると、製造業では前年比増減率27.0%の増益見込み、非製造業では同256.6%の増益見込みとなっており、全規模・全産業では同114.2%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超に転じている」

○ 法人企業景気予測調査(4年1~3月期調査)による景況判断BSIをみると、全規模・全産業で「下降」超に転じている。4年4~6月期の先行きについては、全規模・全産業で「下降」超で推移する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

○ 新設住宅着工戸数をみると、持家は前年を下回っているものの、貸家、分譲住宅は前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

○ 公共工事請負金額をみると、前年を下回っている。

県内経済情勢 (令和4年4月判断)

(資料)

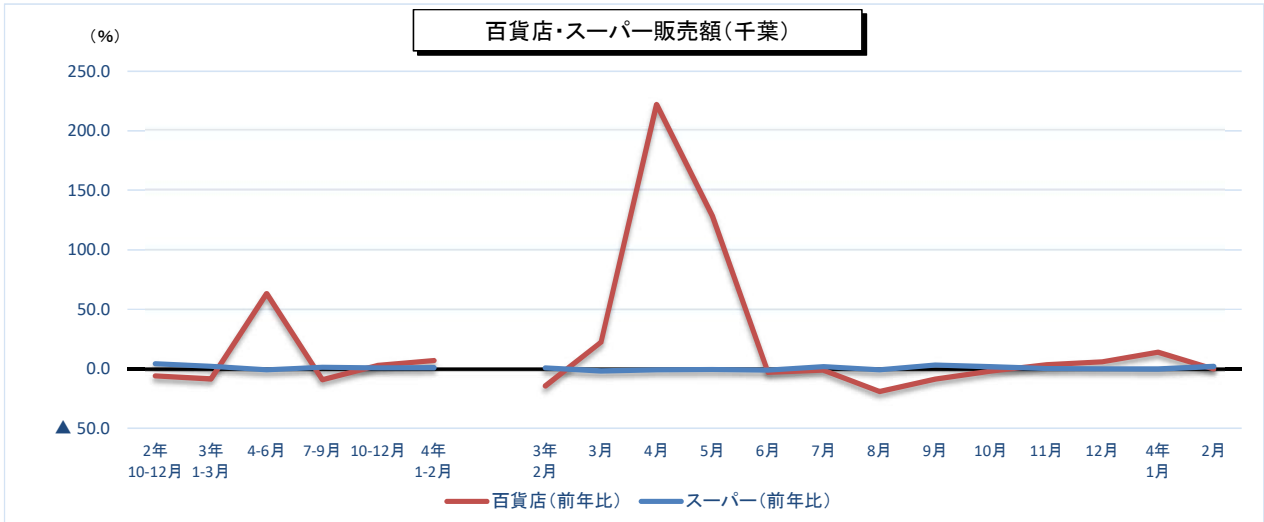
目次	(頁)
1 . 個人消費	1
2 . 生産活動	2
3 . 雇用情勢	3
4 . 設備投資	4
5 . 企業収益	4
6 . 企業の景況感	4
7 . 住宅建設	5
8 . 公共事業	5

令和4年4月27日

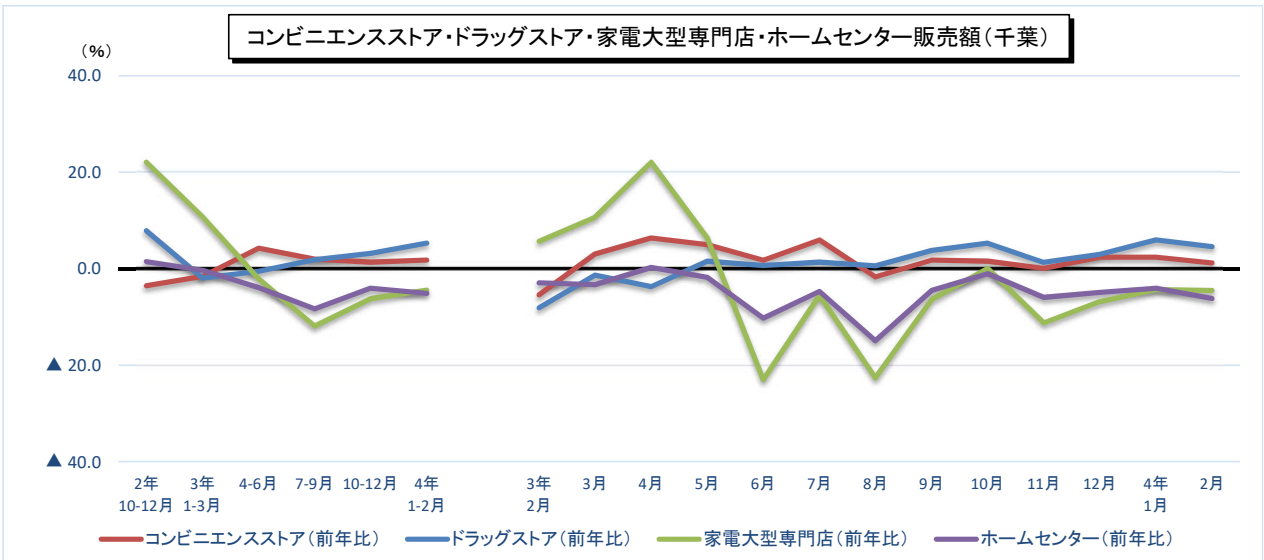
財務省関東財務局
千葉財務事務所

1. 個人消費

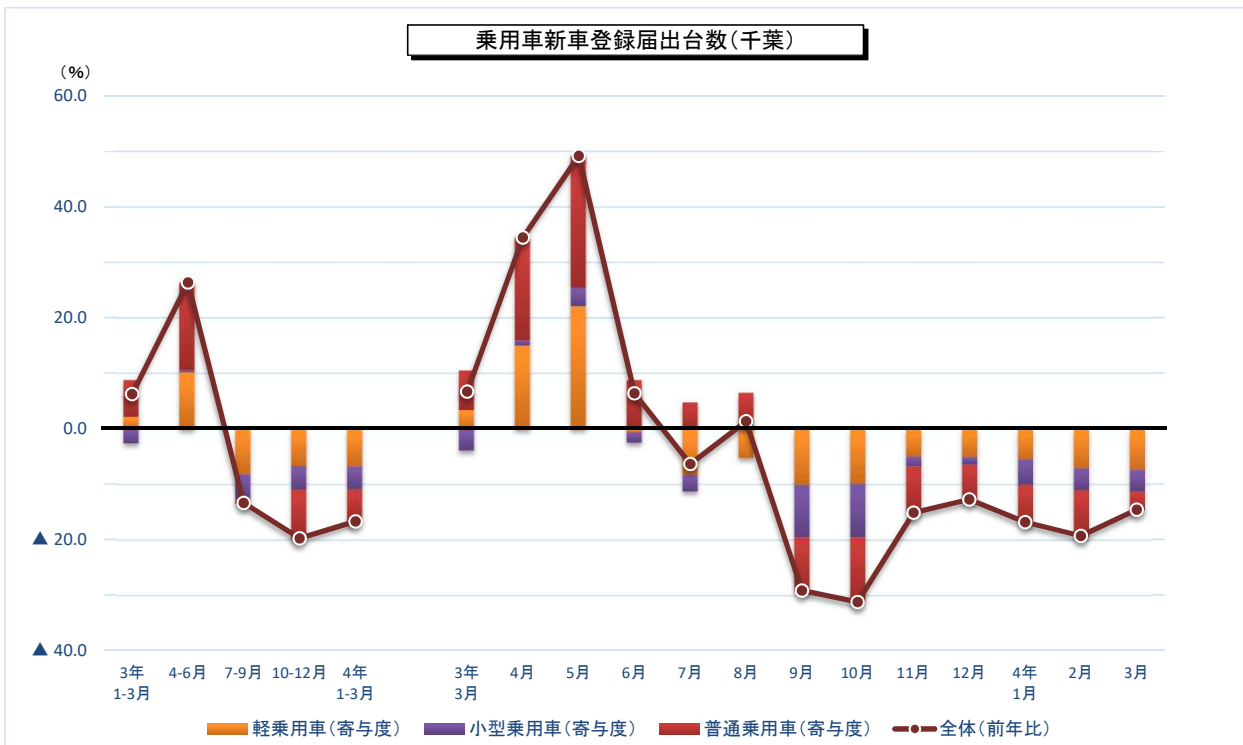
新型コロナウイルス感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している



[経済産業省]



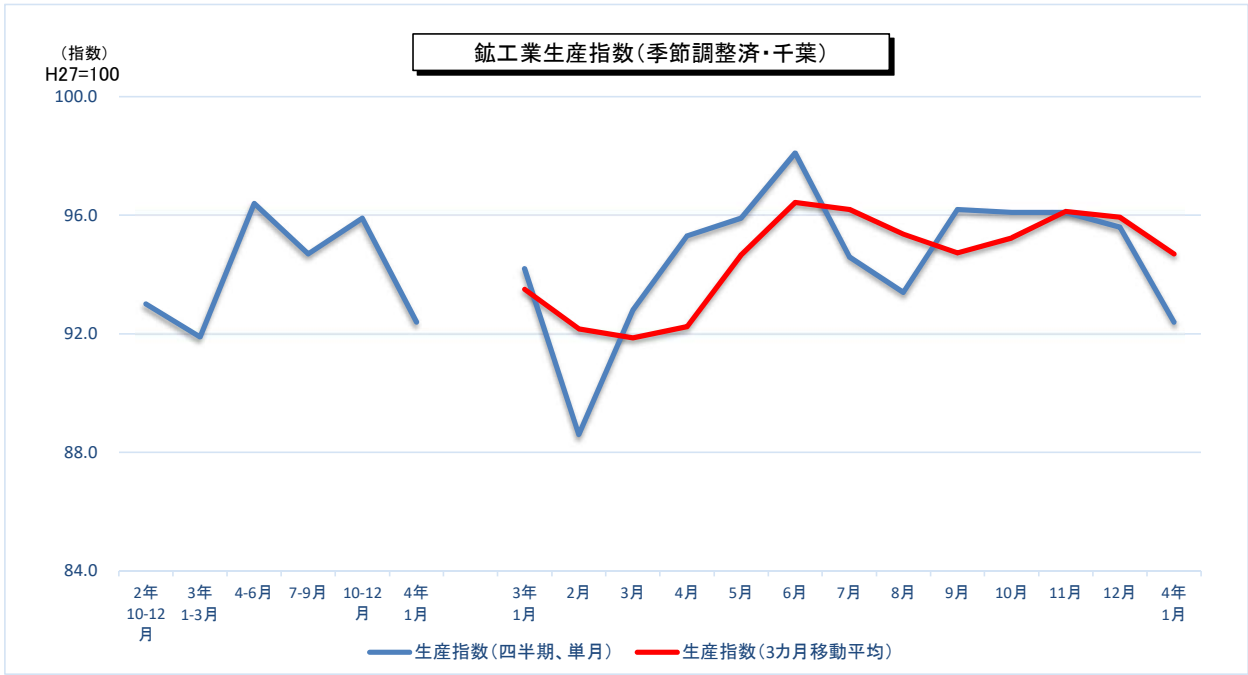
[経済産業省]



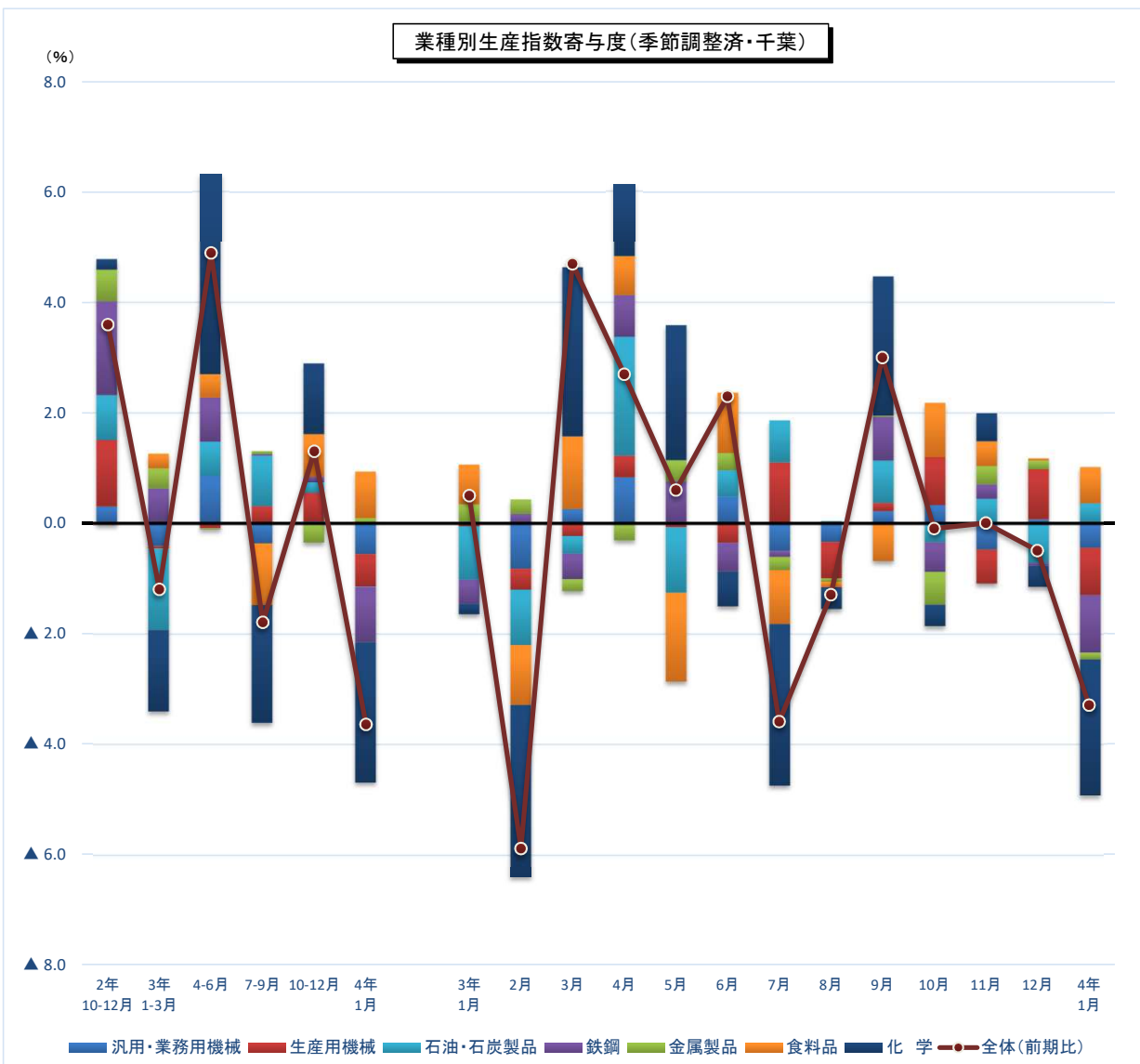
[日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会]

2. 生産活動

足踏みの状況にある



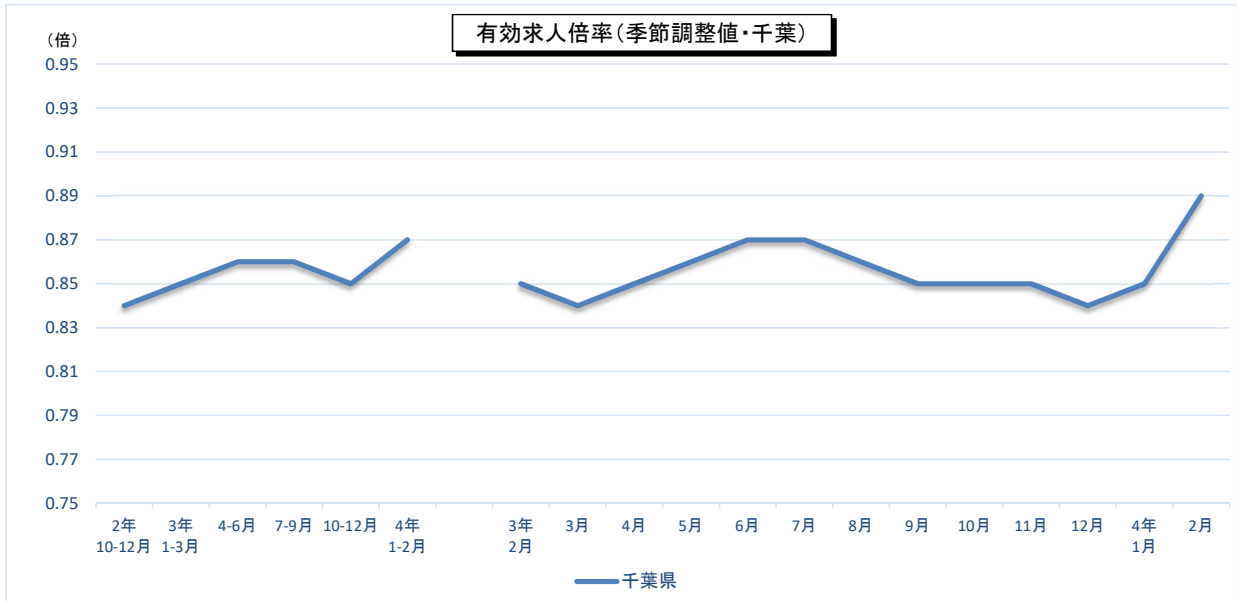
[千葉県]



[千葉県]

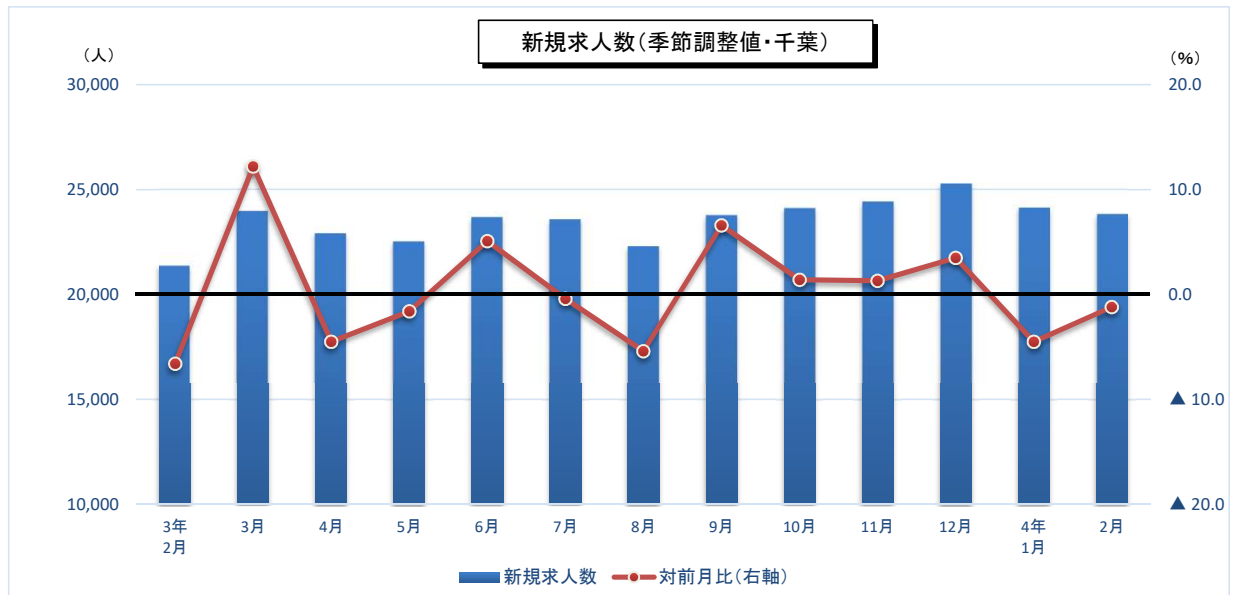
3. 雇用情勢

新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている

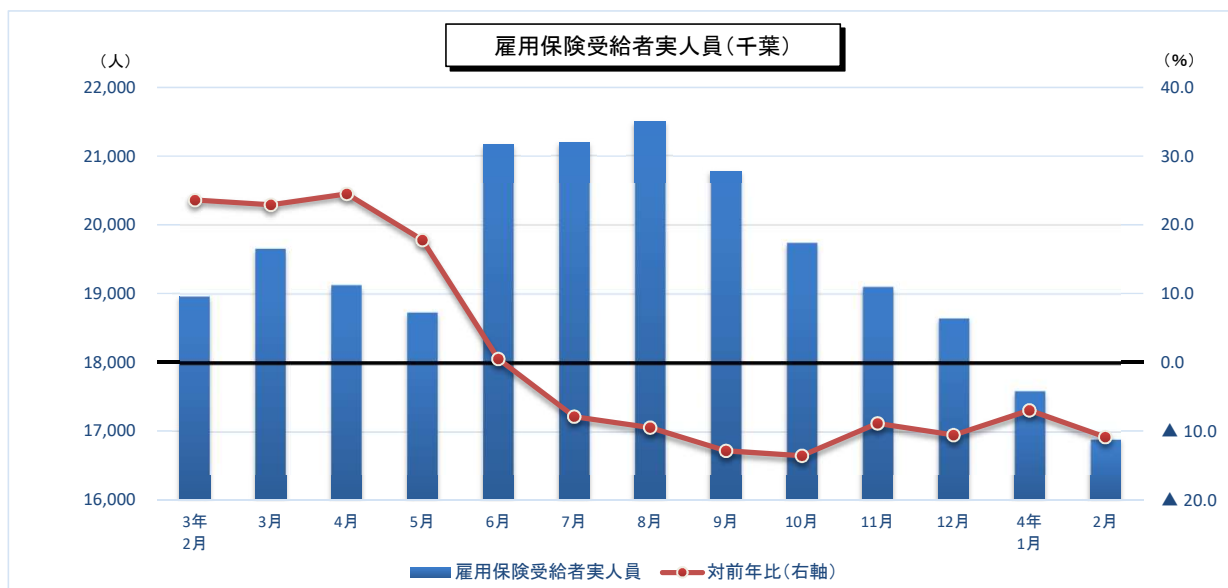


(注)四半期は期中平均である。

[千葉県労働局]



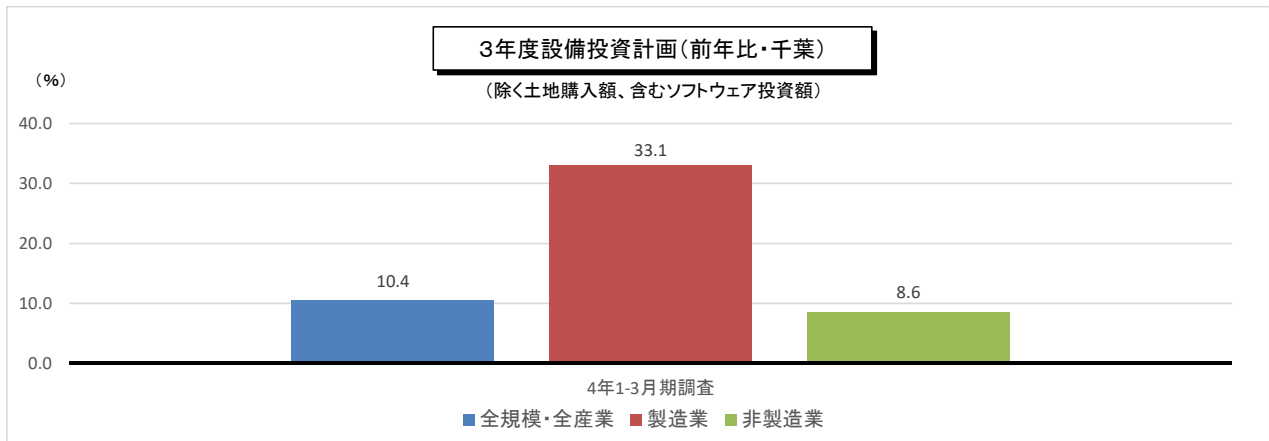
[千葉県労働局]



[千葉県労働局]

4. 設備投資

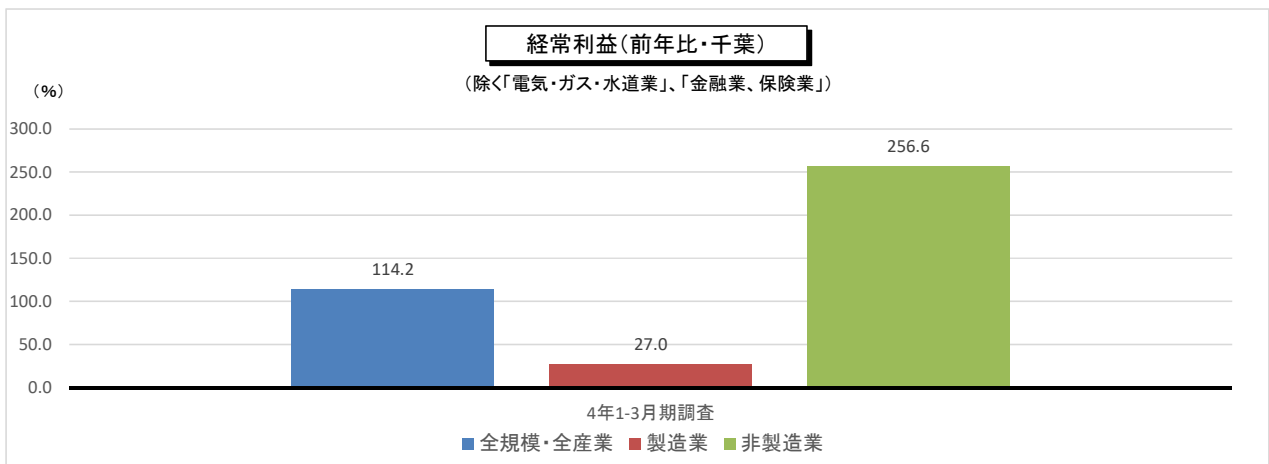
3年度は増加見込みとなっている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

5. 企業収益

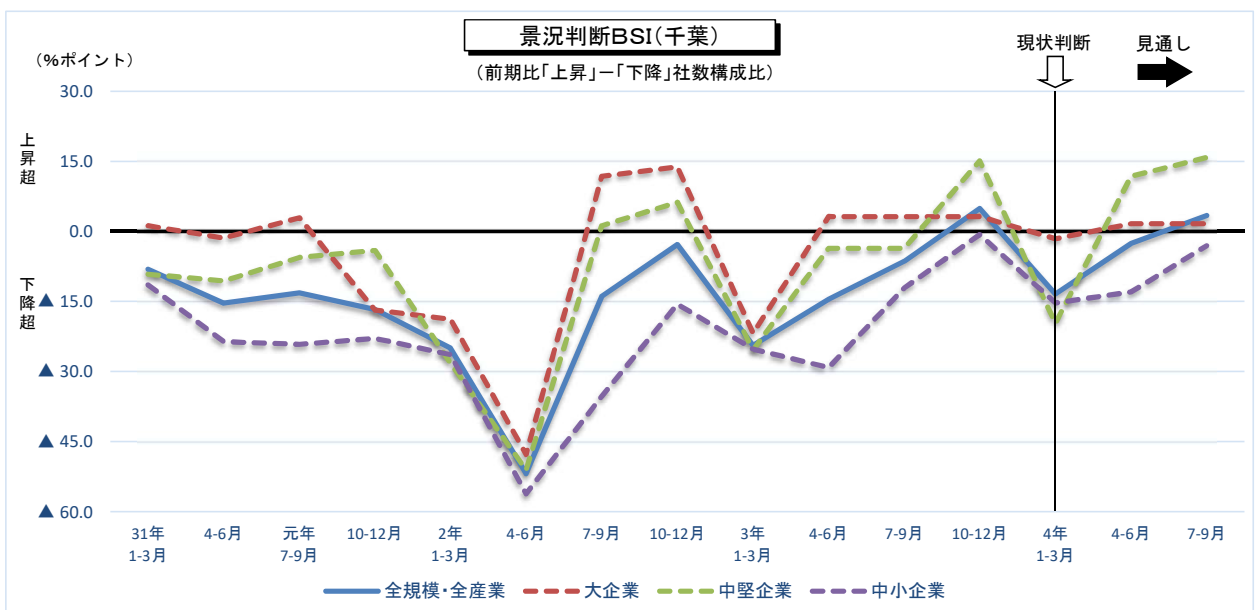
3年度は増益見込みとなっている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

6. 企業の景況感

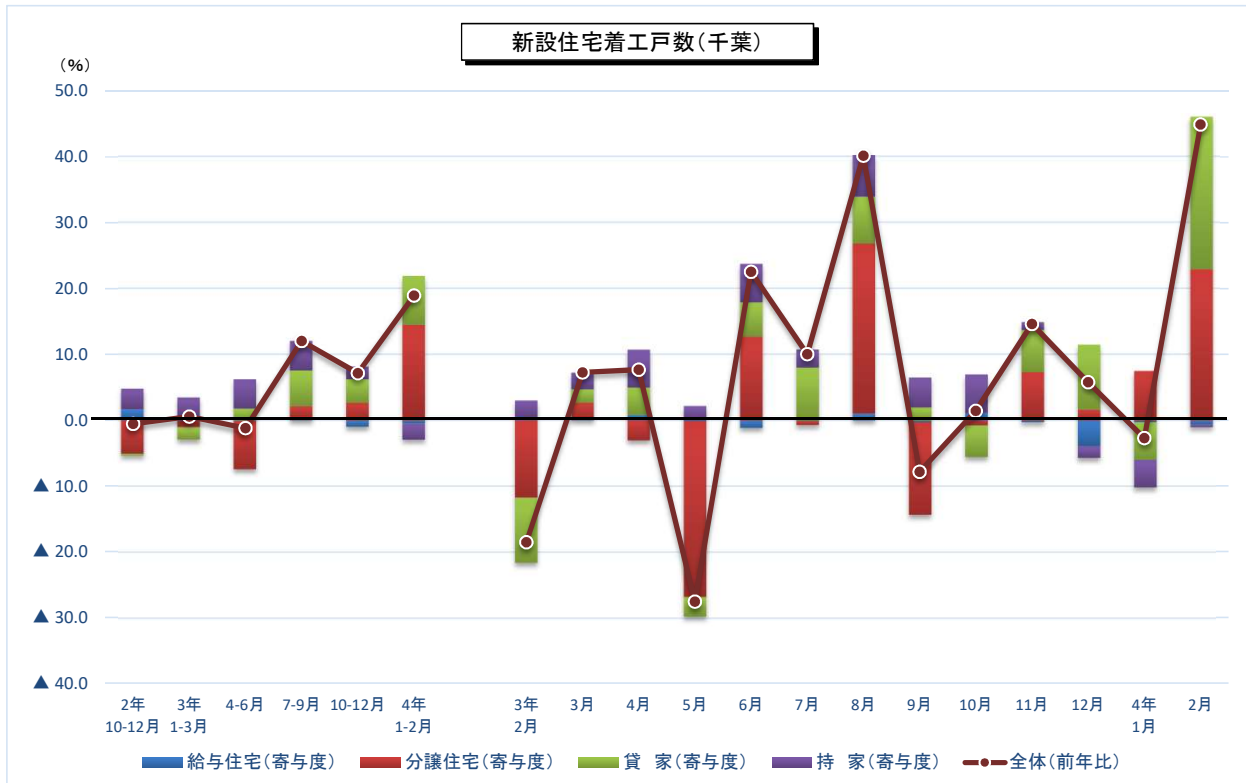
「下降」超に転じている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

7. 住宅建設

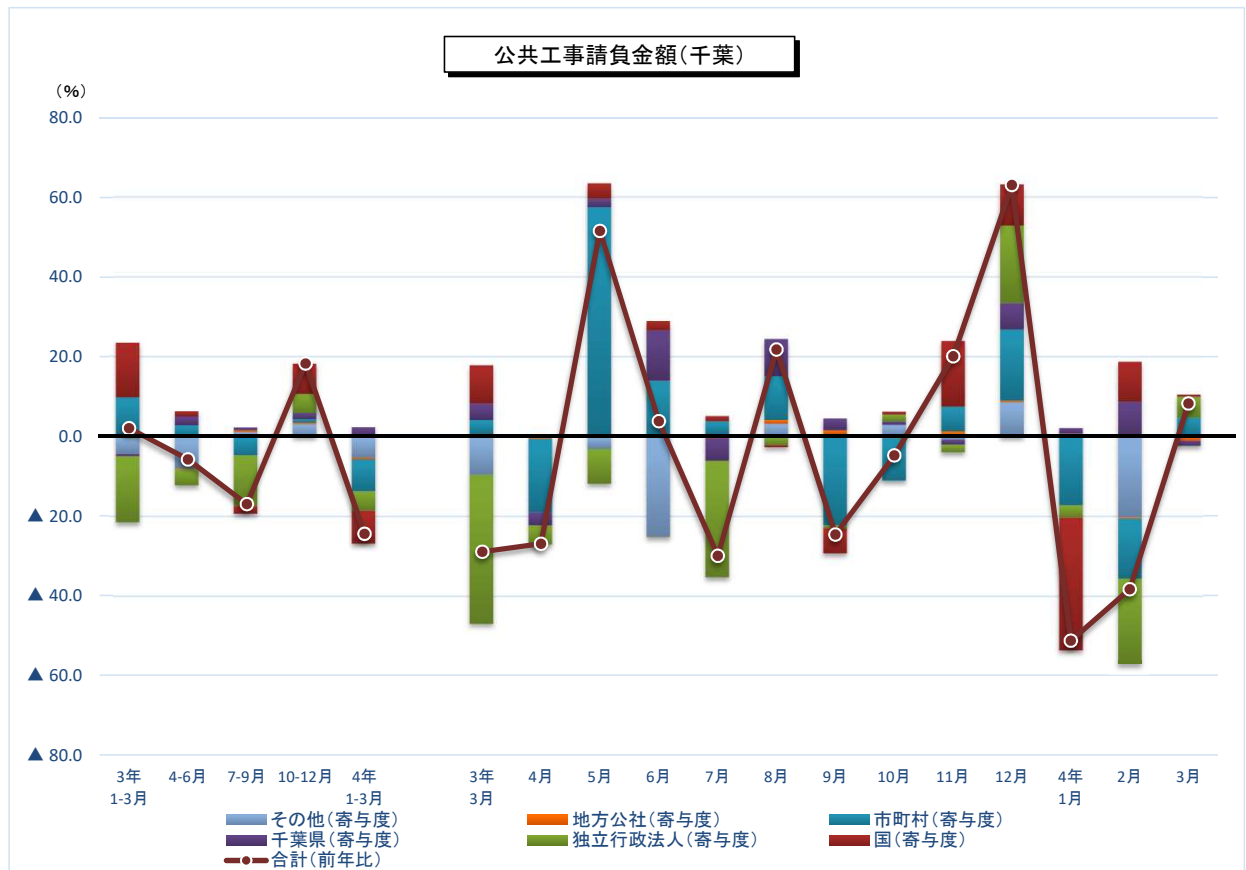
前年を上回っている



[国土交通省]

8. 公共事業

前年を下回っている



[東日本建設業保証株式会社]